

平成29年9月15日

レフェリーレポート

鹿児島県ハンドボール協会 積 芳広

下記大会に審判員として参加しましたので、大会期間中のレフェリングや他県レフェリーとの意見交換などで感じたことを記します。

大会名称、期間

平成29年度 九州ブロック国体（長崎県）

日程：平成29年8月18日（金）～平成29年8月20日（日）

大会日程、担当試合数

8/18（金） 審判会議、代表者会議、開会式

8/19（土） 1回戦 【少年女子1試合担当】

長崎 VS 沖縄

8/20（日） 準決勝・決勝 【少年男子 準決勝1試合 決勝戦担当】

長崎 VS 沖縄 大分 VS 沖縄

審判員会議

- ・平成29年度 審判員の目標を確認。
- ・今大会における確認事項等

【レポート】

今回、鹿児島県から1ペア（海江田）参加させて頂きました。

その中で初日は、領域分担・役割分担や基準の引き方等、明確でない部分が自分自身ありました。

原因としては、日頃の自分のレフェリングにあると思います。

ハードプレーとラフプレーの見極めに対して、ゲームの序盤からもっと厳しくはっきりと基準を示したいと思いました。一発退場のプレーに対して警告を出すこともあったので、ラフプレーに対しては、警告、退場、失格全ての可能性を準備して、状況と現象から判断しなければいけないと思います。

また、ベンチ管理の部分でもTDと連携を取りながらも、審判がしっかりと対処しなければならないと感じることでした。

また、速攻での1対1でのシュートの際にシューターが勢い余ってゴールポストに激突し出血しました。デフェンス側にファウルはないと判断したが、観察ミスだとしたら重大なミスなので、1つ1つのプレーを注意深く予測を持って見ることの大事さを痛感しました。

【他の審判員を見て】

他の審判員のレフェリングを見て感じた事は、上級審判員は即席のペアであっても、落ち着きがあり、判定に対して説得力のある位置取りや所作、笛の強弱短長がしっかりされていました。

【今後の課題】

- ・判定に対して説得力のある位置取りを常に意識する
- ・ターンオーバーの時の走り方や観察
- ・ゲームの序盤からハードプレーとラフプレーの基準をはっきり示す
- ・ベンチ管理

他県の審判員を見て感じたことなどを参考に、今後、県内審判員と意見交換等を行いながら、切磋琢磨してレベルを上げていきたいと思いました。